

普及活動情勢報告（令和3年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ユズ生産者にアンケート調査結果を報告 ～JA十和支所ユズ部総会～



説明を熱心に聴く参加者

新型コロナウイルスの影響で順延していたユズ部総会が6月8日、20名が参加し2年ぶりに行われました。

普及所からは、ユズの農作業支援策の活用及び、大正・十和地域のユズ生産者意向調査結果について情報を提供しました。

これは近年、北幡地域で生産者の高齢化が進み労働力が低下し、管理作業が徹底できず加工用果実の割合が増加している事と、収穫労働力が不足している農家を支援するため取り組んでいるものです。

その場では支援の希望者や作業面の課題についての意見は出ませんでしたが、総会に参加していない生産者にこそ課題があると思われるので、今後とも幅広く生産者に働きかけを行い、地域の課題解決を図り生産者の所得向上に取り組めます。

今年も出荷が始まります ～シシトウ研究会出荷検討会～



出荷検討会の様子

6月1日、JA高知県四万十シシトウ研究会の出荷検討会が開催され、7名が参加しました。

普及所からは、近年発生が見られるファイトプラズマ病についての情報提供を行いました。また、新規栽培者のために、シシトウのパック詰め動画を視聴してもらいました。生産者からの「ファイトプラズマ病の対策はどうしたらよいか?」、「パック詰め作業のスピードアップの参考になる」等の声に対して活発な意見交換ができました。

今後も普及所では、関係機関と連携し、シシトウ研究会の支援に取り組めます。

大井川地区の課題解決に向けて ～地区座談会の開催～



水路の状況確認

6月4日、十和の大井川地区住民センターで地区の担い手農家4名と四万十町十和振興局、普及所で集落座談会を開催しました。

普及所からは水路の現状について4月の現地調査を元に説明し、修繕が必要な場所などについて農家と確認しました。

農家からは「単なる修繕ではなく、補助事業を導入して水路を整備したい」との声があり、事業の要件である担い手への農地集積や高収益作物の導入などについて検討していく事になりました。

今後、普及所は関係機関と連携し、座談会活動を通じて地区の課題解決に向けた支援をしていきます。

鳥獣被害の実態を知り普及活動に活かす ～鳥獣被害対策専門員を招き職場研修を開催～



イノシシの夜間行動を捉えた動画に見入る職員

6月2日、普及所で管内の鳥獣被害の現状と対策を知るために職員を対象に研修会を開催し、14名が参加しました。JA高知県四万十営農経済センターの鳥獣被害対策専門員を講師に招き、加害鳥獣の特性や農作物への被害の実態について学びました。

職員からは、現場で相談の多いモグラ被害について、今後の農家対応の参考にしたいとの声がありました。

講師からは、「防止対策の実施には加害鳥獣の特定が必要であり、それに協力できる」こと、「農家からの情報が少なく、現場活動で情報があれば提供して欲しい」など普及所との連携を提案して頂きました。

普及所は今回の研修を活かして、専門員と連携を取り鳥獣被害の防止を支援していきます。

経営面談で経営改善を ～ニラ部会員に個別経営分析を実施～



経営分析面談会の様子

6月18日、23日、24日にJA高知県四万十支所でJA高知県四万十ニラ部会員を対象に経営分析面談会を行い、同部会員38名が参加しました。

JA高知県四万十営農経済センターの協力を得て実施しているコンサルティング活動の一環で、出荷データと、本人の記帳データから作成した損益計算書や貸借対照表等に基づいて作成した経営カルテを使い、普及員とJA職員が収穫量や、単価、経費について部会平均との比較を行い、日頃はあまり意識していないキャッシュフローについて解説しました。また、営農や経営の課題について相談対応しました。

普及所では、今後もJAと連携し、データに基づいた経営指導により、生産者の経営改善を支援していきます。